

ボランティアアツリズムの可能性

—地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会の実現のために—

北海道大学 観光創造専攻 博士後期課程
依田真美

2012年1月23日

AGENDA

1. ボランティアツーリズムの定義
2. 多様なボランティアツーリズム
3. 観光研究における位置付け
4. ボランティアツーリズムの特徴と可能性
5. 可能性を「現実」にするために



ボランティアツーリズムとは？

ボランティア + ツーリズム

継続して1年を超えない範囲で、
日常生活圏の外で行う、
強制されない、無償の、他者を助ける活動



どれもボランティアツーリズム

Volunteer Tourism/Volunteer Tour

Voluntourism/Voluntour

Volunteer Vacation

Volunteer Holidays

ボランティアツアー

ボランティアホリデー

ボランティア休暇

ワークキャンプ

援農



ボランティアツーリズムの(短い)歴史

- ボランティアが目的の旅行は以前からあった
 - 各種の国際協力ボランティアなど
- 1990年代後半に、欧米豪州でGap Yearが盛んに
 - 1年以下の短期間のプログラムの提供
 - 一般の人でも参加できる多様な活動内容
- 2000年代に入り、「ボランティアツーリズム」と呼ばれ始める
- 日本では東日本大震災をきっかけに知られるようになる

例1: Earthwatch Institute

モンゴルの大草原の野生生物
— 絶滅に瀕している野生ヒツジの
個体数減少を食い止めるための
行動と生態の調査 —



現地調査日(14日間):

チーム1: 2011年5月8日 - 5月21日

チーム2: 2011年5月29日 - 6月11日

チーム3: 2011年6月26日 - 7月9日

調査地: モンゴル、ドルノゴビ・アイマグ、イフ・ナルティーン・チュロー自然保護区

研究分担金: 200,000円(食費、宿泊費など現地費用のみ。現地までの交通費は別途自己負担。)



例2: マリンサービスナルー、JAM

沖縄県でのサンゴ苗移植。
ダイビング・ショップ主催。
特別な技術を必要としない
1時間程の作業。



日程: 半日

作業地: 沖縄県読谷村

参加費用: 1.5万円前後

(苗代2500円含む、移植ダイビング1本とファンダイビング1本の場合)



例3: リボーン アースデイ東京タワー 天ぷらバス ボランティアチーム(泥かき隊)

東日本大震災の復旧支援作業。

宮城県石巻市における

施設(学校など)、民家内の汚泥かき・清掃

実施予定: 3月26日(土)、4月8日(金)以降毎週金曜。

スケジュール:

<1日目(金)> 22:00 新宿駅西口 集合・参加費支払・出発

<2日目(土)> 6:00 宮城県石巻市ボランティアセンター着、作業説明

8:30 現場にて泥かき・清掃など作業

15:00 作業終了、片づけ 16:00 現地出発 22:00 新宿駅西口解散

費用: 8000円(自分の食糧、水は持参)



さまざまなボランティアツーリズム

- 期間:** 1日～1年*
- 場所:** 国内・国外、発展途上国・先進国、都会・田舎など
- 参加者:** 子供、学生、社会人、シニア
- 活動:** 環境保全、文化資産保全、農業支援など
- 参加要件:** 一般～専門技術
- 観光:** ほとんどなし～観光が重点
- 主催団体:** 政府(自治体)、NPO・NGOなど
- 仲介団体:** 教育機関、NPO・NGO、政府(自治体)、民間企業

▶ *観光研究では、観光と移住を期間1年で区別することが一般的である。

観光研究における位置付け

- ◆ 1980年代後半以降のマスツーリズムに対する反省：
ホストコミュニティの文化・環境資源の疲弊や変容
 - ◆ オルタナティブ・ツーリズム(もうひとつの観光、新たな観光)や
サステイナブル・ツーリズムとしての位置付け
(Wearing, 2001 ; Sin 2009 等)
 - ◆ 研究者の関心
ボランティアツーリズムは、
ホストコミュニティとゲスト(観光者)の関係を変えるのか？
ホストコミュニティに配慮した観光ができるのか？
-



ボランティア・ツーリズムの特徴(1)

通常の観光の場合

地域



金銭提供



観光者



地域の文化
自然資源提供

ボランティアツーリズムの場合



特定の目標

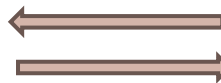
主催者

協働者



地域

労力知識提供



参加機会提供

協働者



観光者

ボランティア・ツーリズムの特徴(2)

- ◆参加者に与える影響が大きい (Wearing 2001)
 - 自己発見や自己成長の機会
 - 世界観や人生観の変化
- ◆参加者に与える影響が長く続く (Sin 2009)
- ◆参加者間に強いネットワークができる (McGehee and Santos 2005)
- ◆参加動機は利己的・利他的両方 (Broad 2003)



ボランティア・ツーリズムの可能性(1)

多様な動機と
共通の関心を
持った参加者

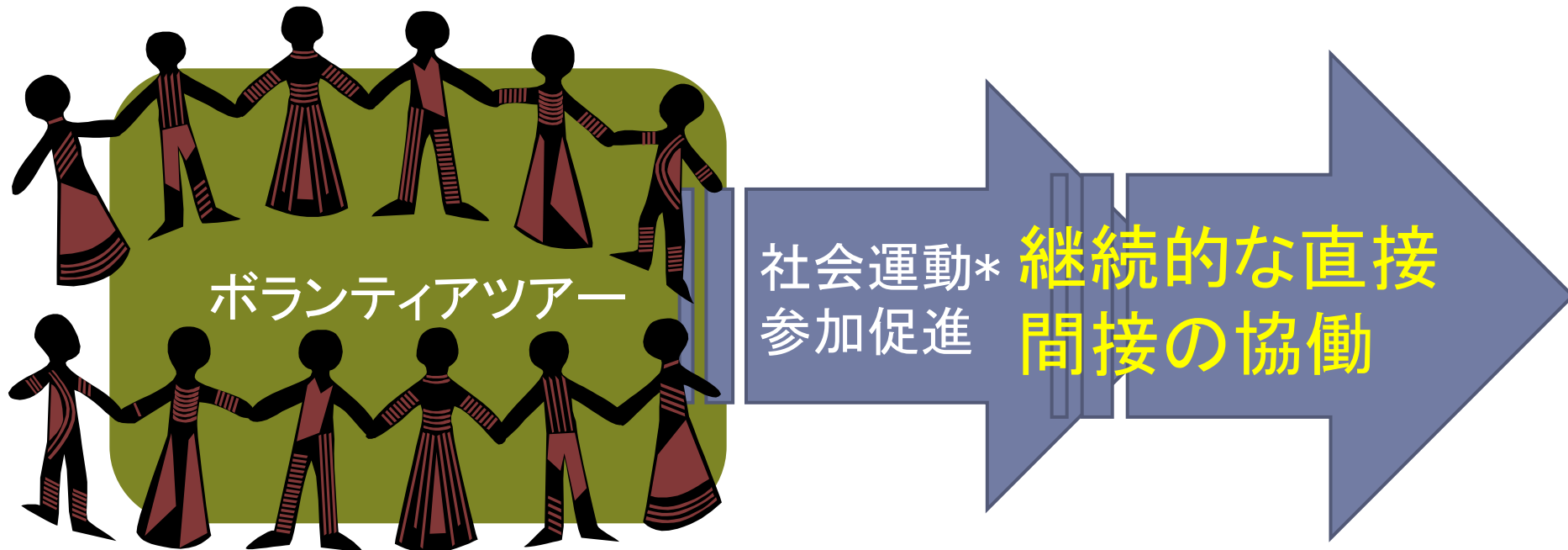


社会運動*
参加促進

- 他者や自己との出会い直し
⇒ **意識高揚・意識変容**
- 参加者間やホストコミュニティと
のネットワーク形成

地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会の実現のための

ボランティア・ツーリズムの可能性(2)



PERSONAL AS POLITICAL*

「政治的な個人」

生活のあらゆる場面での信条の実践

ボランティアツーリズムの限界や課題

◆考え方に影響を与えても、行動に結びつかない

(Ver Beek, 2006 ; Coghlan, 2008)

◆地域の人との交流は限られている

(Raymond and Hall, 2008)

◆スキルのないボランティアのできる活動に限界がある

(Simpson, 2004)

◆地域のニーズにあった活動が実施されない場合がある

◆地域の人々の就業機会を奪う可能性がある

(Guttentag, 2009)



可能性を「現実」にするために(1)

「全体の一部」としてのボランティアツアー

- ✓ ボランティアツアーは、**単独では存在しえない**
- ✓ 必ず何らかの**ミッション**を持ったプロジェクトの一部である
- ✓ ボランティアツアーは、その**ミッションを遂行するために望ましいのか**
- ✓ その**ミッション**遂行に、どのような**貢献**をするのか



可能性を「現実」にするために(2)

「関係性のデザイン」としてのボランティアツアー

「このツアー」ではどのような関係性を構築したいのか

- ✓ 多様な可能性と長期的な視点
- ✓ 活動内容との一貫性

強い関係性構築の鍵は、意識変容とネットワーク

- ✓ 意識変容には内省とグループでの活動が有効
- ✓ 参加者同士、参加者と関係者が知り合える環境作り
- ✓ ツアー後もバーチャル、リアルでつながる仕組み作り



ボランティアツーリストの類型(参考)

ボランティア・ツーリスト	浅い (Shallow)	中程度 (Intermediate)	深い (Deep)
訪問先の重要性	訪問先が重要	プロジェクトと訪問先の双方が重要	訪問先よりもプロジェクトが重要
参加期間	短い。通常は4週間以下	中程度。通常は6ヶ月以下	中程度から長期 6ヶ月もしくはそれより短い期間の集中参加
体験の目的：利他的か自分の興味か	利他的理由を自分の興味の重要性が上回る	利他的理由も自分の興味も重要	利他的理由が、自分の興味よりも重要
参加者の技術水準や資格に対する要件	最低限の技術また資格要件	一般的なスキルを提供するかもしれない	専門的技術や経験および/または時間を提供するかもしれない
能動的/受動的参加	より受動的な傾向	受動的な面と能動的な面が入り混じった参加	より能動的な傾向
地域への貢献度	地域への直接的な貢献は小さい	地域への直接的な貢献は中程度	地域への貢献は大きい

Source: Callanan et.al. (2005)



ボランティアツアーの類型(参考)

ボランティア・ツアー	浅い (Shallow)	中程度 (Intermediate)	深い (Deep)
参加期間の柔軟性	高い柔軟性があり、参加者が選べる	高い柔軟性があり、参加者が選べる	ボランティアではなく、主催機関が参加時期や期間を設定することが普通
募集における行き先とプロジェクト内用の重要性	行き先やオプションツアーの機会を強く訴えかける	行き先を踏まえた上で、プロジェクトを訴えかける	プロジェクトや活動、現地のコミュニティ、地域、地域にとってのプロジェクトの価値について強調。
ターゲット層：利他的なグループ 対 自分の興味が強いグループ	学校での単位認定などに関連した体験や技術の習得が可能であることを訴えかける	学校での単位認定などに関連した体験や技術の習得が可能であることと並んで、訪問地域への貢献を訴えかける	仕事内容がどれだけ訪問地域にとって価値があるかにより焦点を絞る。文化的な体験、本質的、相互関係を訴えかける
参加者の技術水準や資格に対する要件	特になし。もしくは、最低限の技術要件。	要求されるとしても、ほどほどのスキルに限られている。あれば望ましい。	技術や経験、資格、時間などに注目する。
能動的/受動的参加	受動的な参加	適度な参加	活発な参加。地域に密着。
地域への貢献度	個人の地域への貢献は限られているが、それらが集まった時には地域にとって価値のある活動となることもある。意思決定に地域がどれだけかわっているかについての情報は限られている。	個人の地域への貢献はほどほどであるが、集合として捉えた時には、明らかに地域にとって価値のある活動となっている。意思決定に地域がどれだけかわっているかについての情報は限られている。	ボランティアの地域への直接的な貢献は明らかである。地域がどのようにプロジェクトの意思決定に関わっているかについての情報は明らか。

Source: Callanan et.al. (2005)

参考文献 (1)

- Callanan, M. and Thomas, S.(2005): Volunteer Tourism, Deconstructing volunteer activities within a dynamic environment, (ed by M. Novelli, *niche tourism, contemporary issues, trends and cases*, Butterworth-Heinemann
 - Coghlan A. (2008): Exploring the role of expedition staff in volunteer tourism. *International Journal of Tourism Research* 10, 183–191
 - Guttentag, D. A. (2009) The Possible Negative Impacts of Volunteer Tourism, *International Journal Of Tourism Research* 11(2009), 537-538
 - Knoke, D. 1988 Incentives in Collective Action Organizations. *American Sociological Review* 53:311–329.
 - Klandermans, B. 1992 Transient Identities? Membership Patterns in the Dutch Peace Movement. In *New Social Movements: From Ideology to Identity*, J. Gusfield, H. Johnston and E. Larana, eds., pp. 168–184. Philadelphia: Temple University Press.
 - Marshall, G., ed. 1994 *Oxford Dictionary of Sociology*. New York: Oxford University Press.
 - McGehee, N. G., & Santos, C. A. (2005). Social change, discourse and volunteer tourism. *Annals of Tourism Research*, 32(3), 760-779.
-



参考文献（２）

- McGehee, N. G., & Santos, C. A. (2005): Social change, discourse and volunteer tourism. *Annals of Tourism Research*, 32(3), 760-779
- Raymond, E. and Hall, C. (2008): The development of cross-cultural (mis)understanding through volunteer tourism. *Journal of Sustainable Tourism* 16(5), 530–543
- Simpson, K.(2004): ‘Doing development’: the gap year, volunteer-tourists and a popular practice of development, *Journal of International Development*, 16(5), 681-692
- Sin, H. L. (2009): VOLUNTEER TOURISM--"INVOLVE ME AND I WILL LEARN"?, *Annals of Tourism Research*, 36(3), 480-501
- Ver Beek K. (2006): The impact of short-term missions: a case study of house construction in Honduras after Hurricane Mitch. *Missiology: An International Review* 34(4), 477–496
- Wearing, S.(2001): *Volunteer Tourism, Experiences That Make a Difference*,CABI Publishing
- 依田真美(2011): ボランティアツーリズム研究の動向および今後の課題, 国際広報メディア・観光学ジャーナル, 第12号, pp.3-20

